

特別会員リレー寄稿

幕末維新期の海外留学生

明治大学名誉教授 渡辺 隆喜

遣米使節団に関心—アメリカへ

今回は私の海外研究の話をしましょう。

今から 30 年前、私はアメリカ、イギリスを中心に海外研修に出かけました。この時私の課題は、幕末維新期の海外留学生の研究で、特に近代の「自由平等」概念の、憲法にも取り入れられる日本への導入過程に興味をもっていました。私の勤務先の大学の建学理念も「自由平等」です。

海外研究出発当時、直接の興味は小学生以来の遣米使節団の動向でした。現地新聞の分析を通じて、日本の世界史への登場過程を明らかにしようとしたのです。

私が小学校 3 年生の時、終戦になり、その直後の学校は混乱していました。教師による往復ビンタはなくなり、クラスの名前は戦前の、忠・孝・悌から松・竹・梅へ。やがて 1・2・3 組に変わりました。教科書も黒塗り手伝い、最初は粗末なワラ半紙の牛若丸の話でしたが、すぐにホイットマンの詩集「草の葉」に変わりました。チョン髷姿の若者が、国の運命を背負って威風堂々と行進し、大統領の謁見に臨む遣米使節団（万延元年）の姿が詠まれています。私はこの若者に新しい日本の出発点を見た詩人にあこがれていました。そのため、フィラデルフィア訪問の時、隣のライデン市にホイットマンの生家（文化財）を訪ねました。ア



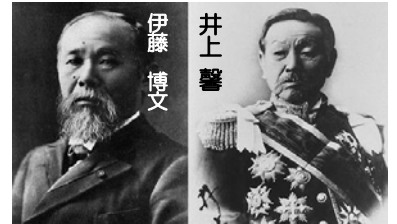
メリカも自由を求めて立ち上がった独立当時の国会議事堂や自由の鐘がフィラデルフィアにはあります。この夜ヒルトンホテルに泊まり（隣接のペンシルヴァニア大学では、この時、野口英世展が開かれていました）、翌日ウッドランドの共同墓地で、馬場辰猪の墓を探しました。

馬場は土佐出身、ロンドン大学に留学、法学院でローマ法を学びます。明治 6 年当時、100 人ほどの日本人留学生の会を組織し、これを基礎に、帰国後は「共存同衆」という日本最初の演説結社を組織し、最初の民間の憲法草案を作成します。自由党が結成されると、幹部として自由民権運動で活躍し、その後弾圧された日本を脱出、渡米して、明治 21 年に 38 歳でこの地で

死亡します。自由を求めた一生だったように思います。

ロンドン大学—チョウシュウ・ファイブ

アメリカの後、私はロンドンに渡り、ロンドン大学に籍を置き、日本人留学生の研究を始めます。ロンドン大学最古のユニヴァーシティ・カレッジに最初に入學した日本人は、文久 3 (1863) 年の伊藤博文、井上馨、野村弥吉、山尾庸三、遠藤謹介の 5 人です。



半年後、伊藤、井上は、ロンドンタイムスに報道された日本での四国連合艦隊と長州藩との戦（下関戦争）の記事を見て、急遽帰国します。

それはグリニッジ天文台の裏手にひろがるロウテンダの軍事博物館に展示された世界中から分捕った武器を見て、日本からの戦利品が粗末すぎ、世界を相手に戦うのは無理と感じたからと言います。帰国時すでに戦争は終わっていましたが、開国派として尊攘派の藩士に襲われながら、藩首脳と共に戦後処理に尽力します。こうして藩の実力者に成長するのです。

現在ユニヴァーシティ・カレッジの博物館前に、日本人留学生を記念して「チョウシュウ・ファイブ」（長州の 5 人）の碑が立ったと言います。私の調査時は無かったのですが、山口県では建碑を機に映画を作成しています。私は帰国後、山口県で講演をしたこともあり、山口新聞から取材も受けました。

新日本建設に健闘した留学生

ロンドンでは東郷平八郎の調査を試みました。練習船に世界史上の有名な人として、英女王と二人のみの写真が飾られていることは知っていましたが、むしろ慶



森 有礼



五代才助

応元年密航の、薩摩藩士森有礼（初代文部大臣）や五代才助（船奉行、関西財閥、NHK「朝が来た」のディーンフジオカの役）、幕府派遣の順天堂初代佐藤泰然の子林薫三郎（外務大臣）、菊池大麓（東大総長）により興味を持っていました。菊池は後にケンブリッジ大学に転じ、優等生として紹介されて、日本人の地位を高めたのです。留学生は新日本建設のため健闘していたのです。